

## 第 39 回講演会 開催報告

日中関係は、最近、多少は良くなって来たように感じられますが、依然として難しい問題を抱えています。このような中で、これから中国はどのような方向に向かって行くのか？或いは、日中関係はどのようなになって行くのか？誰しもが興味を持っているところだと思います。

ご用意いただいたレジュメを拝見しますと、最近の話題として、アメリカの新しい次期大統領の登場が米中関係にどのような影響を及ぼすのか？そして、日本にはどのように係って来るのか？その他、最近の中国を語るには欠かせない「新常态」、或いは汚職の問題など様々なキーワードが登場して来ます。

今日の講演会が今後の皆様のお仕事、或いは中国との交流に役立つことを願っています。

(長崎卓運営副委員長による、開会の挨拶より)



1. 日時：11月29日（火）16：00～17：30
2. 場所：大和ハウス工業株式会社 東京本社ビル 2F  
コンベンションホール
3. 講師：塚越敏彦氏  
(株式会社共同通信社 前国際情報センター長)
4. テーマ：「習近平中国の行方」
5. 参加人数：48社 134名

### 塚越敏彦氏 講演

私はこれまで30年余り、取材で中国の問題を追いかけて来ました。そのうち半分の15年は通信社の特派員として北京、上海に駐在いたしました。ですから、中国の事は知識としてはよく分かっているつもりなのですが、肝心の問題になるとなかなか判断がつかないことがたくさんあります。例えば、中国共産党の政権は何時まで続くのだろうか？終わりはどうなるのだろうか？中国経済はアメリカを抜いて世界一になるのだろうか？このような問題になるとなかなかはっきり答えられないというのが実情です。

アメリカの次期大統領にトランプ氏が当選しましたが、トランプ時代のアメリカと中国との関係は一体どうなるのか？これも答え難い問題です。ですから、トランプ時代の中国と米中関係というのはまだ予測の域を出ないのですが、恐らく皆さんの関心の深い問題だと思いますので、この辺りから話に入っていきたいと思います。

#### トランプ登場と米中関係

トランプ氏の当選が決まって、中国指導部は喜んだのではないかと思います。先ず、トランプ政権の登場で、アメリカは国内的にも対外的にも相当混乱が予想されます。イスラム教徒の問題もあり、メキシコとの国境の移民問題、或いはTPP、或いは国内の亀裂をどうするか、それからアメリカ軍の駐留問題等々いろいろあります。トランプ氏は内向きで、アジアから手を引こうとしているのです。

2点目は、トランプ氏は反グローバル化、保護主義という傾向を鮮明にしているという点。

3点目は、米中間の貿易等の経済摩擦は恐らく増大するという事です。これまで中国は、「アメリカ主導の国際経済秩序に挑戦したり、敵対することはしない」、「自分たちの新しい経済秩序を打ち出すということもしない」と言って来ました。ただ、「一部には不公平・不合理なことがある。それは修正

したい」と言って来ました。これがアジアインフラ投資銀行の設立等に表れていることでもあります。もし、トランプ氏が反グローバル化、保護主義を強めれば、中国のこういった姿勢も変わる可能性は充分にあります。新たな国際秩序を率先して打ち出すということもあり得るのではないかと思います。

### 現状：中国社会の「新常态」

それでは、本題の習近平中国の行方という話題に入りたいと思います。まず最初に、中国社会の現状についてですが、中国社会が人口構成の面、或いは人が何処に住んでいるかという面、或いは労働人口といった面でこれまでとは大きく変わって来ている、変わってしまったという点です。この大きく変わった新しい状態を中国語で「新常态」、新しい常の状態というように言っています。

この後、「中国社会の現状」を踏まえて、「習近平の目指すところ」はどのような中国か？そして、それを具体的に進めるための政策としての「政治分野」「経済分野」「課題 - 立ちはだかる罫 -」について、具体例を挙げながら詳しく且つ分かり易くお話いただきました。

そして、最後に次のように総括されました：

ここで、やや結論めいたことを言いますと、習近平体制は来年（2017年）の党大会で再選されると、2022年まで任期が伸びます。あと5年、来年も入れて考えると6年間は習近平がトップを続けるということです。習近平に権力が集中されたことで、成長モデルの転換を含めて、改革・開放がかなり深化・推進するのではないかと思います。胡錦濤のように実権がなければ何も進まない。それでは「中華復興」という夢が実現できないということで権力を集中した訳ですが、その結果、想定外のトラブルが起きない限り、中国の総合的な国力はこの5、6年で相当アップすると思います。経済成長率が半分になったと言っても、少しずつでも庶民の生活は良くなっているのです、経済構造はもっと筋肉質なものになるのではないかと思います。

習近平のやり方というのは、中国、或いは中国人の立場に立てば、大筋ではそれほど間違っていないと思われまます。従って、この5、6年内、つまり習近平がトップにいる間に、共産党政権が崩壊するか、或いは中国社会が大混乱に陥るといったことは考え難いと思います。その先どうなるかというのは、彼の後継者がどうなるのかという問題と併せて、これは予測不能であります。

最後に、塚越氏がこれまで30年近く取材で中国と付き合ってきたご経験から、中国人が一体どのように考え、どのように行動するかという様式パターンを中国人と日本人の比較を以て紹介いただきました。このお話は講演会を聞かれた方々にとっても好評だったのですが、本稿においては紙幅の関係上、キーワードだけをご紹介します。

1項目は囲碁とチェスの違い。2番目は相撲と太極拳の違い。3番目は桜と牡丹の違い。4番目は性善説と性悪説の違い。5番目、過去の出来事や教訓から物事を判断する。6番目は、物事は流動的で相対的で矛盾や不均衡があることは自然であるということ、でした。

**講演会の内容については、上記の中国人の思考・行動様式を含めて、会報誌「日中建協 NEWS」No.225号（2017年1・2月号）に詳しく記載しています。**

講演会終了後、講師の塚越様にもご参加いただき、会場を大和ハウス工業（株）東京本社ビル23階レストランに移動して、懇親会を開催しました。懇親会には、136名の方が講演会に引き続きご参加いただきました。